White Paper

Clip
White Paper

1. イントロダクション
2. プロジェクト背景
3. 技術概要
4. プロダクトとサービス
5. トークンエコノミクス
6. ロードマップ
7. チームとパートナーシップ
8. リスクとコンプライアンス

1. イントロダクション

サステナブルな世界の構築へ

ESGやSDGsという言葉を聞いたことがある人は多いと思います。

一方で、ひとことでSDGsという単語を目にしても、実際に「何に対して」「どのようなことをするか」についてイメージアップをすることは難しいのではないでしょうか。

このような“ワード”だけが飛び交う世界の中に、ESGやSDGsに対する具体的な取り組みを可視化し、ユーザーが参加していくことでサステナブルな社会が実現される仕組みづくりが必要とされており、かつこれらの行動を“楽しんで”行えることが重要だと考えます。

わたしたちのプロジェクトClipは、“エコ” をテーマとした新しい世界観を構築していきます。



Blockchain活用による改ざん不可性。
トークンを用いたユーザードリブンの経済圏の創出。

ブロックチェーンは、第二のインターネットとも呼ばれており、従来のシステムが抱えている課題を解決する画期的な技術です。

ブロックチェーンを活用することで、データの改ざんを防ぎながら、様々な行動履歴を未来永劫残していくことが可能となっており、この技術を用いて、BitcoinやEthereumといった暗号資産（トークン）は運用されています。

本プロジェクトでは、ブロックチェーン自体がサステナブルであることに着目し、自然環境のための行動・PJやアイドル活動に対して導入することで、ユーザー参加型のサステナブルな経済圏を創出します。



様々な自然環境に関わる活動に焦点を当てる。



本プロジェクトでは、新しい技術の開発と既存の資源の保護に関わる活動の拡大に貢献することを目指します。

CO2排出量を削減することは大事ですが、同時にCO2の吸収を担う森林保護活動が重要であり、植林活動に注目をします。

また、エネルギー効率が改善される新世代バッテリー（蓄電池）開発に取り組んでいるプロジェクトとの連携を進めます。

加えて、クリーンエネルギー創出のためのバイオマス発電や、その他環境保護に関わる団体との連携・支援を、わたしたちのプラットフォームを通じて促進していきます。

様々な自然環境に関わる活動をアイドルを通じて支援する

環境活動への取り組みを“楽しんで”行うことのきっかけとして、アイドルという要素も組み込みます。

アイドルとは、ファンにとって日常の癒しになる存在であり、社会的影響力が大きいアイコンです。

そして、社会的影響力の大きいアイドルだからこそ可能な、エコ活動について連携・推進していきます。

また、いかに脚光を浴びたアイドルであろうと、一定期間がたつと次第にフェードアウトしていってしまうのが現状です。

わたしたちは、黎明期のアイドルから卒業したアイドルまでをターゲットにアイドル世界においてもサステナブルな世界を作り上げていきます。



2. プロジェクト背景

1. プロジェクト背景

SDGsという言葉が独り歩きしている。

個人レベルで、具体的に何に取り組むべきなのかを明確化。



国連が標榜するように、SDGsは24の目標で構成されています。

ご覧のように、SDGs目標はテーマが多岐に富んでおり、それ自体は素晴らしいことですが、個人レベルでどのようなアクションを起こせばよいのかを考えると、戸惑ってしまうことが多いと考えられます。

わたしたちは、個人が取り組みやすいテーマを設定することで、より多くの人がSDGsに対して手触り感をもった活動ができるようになることを目指します。

また、継続性があることが重要であり、トークンやNFTを活用することで、楽しみながら貢献活動を行える仕組みを構築します。

1. プロジェクト背景



アイドルのライフサイクルは短い。

彼女らのバリューを、もっと長くサステナブルに伝えたい。

日常で慣れ親しんでいる“アイドル”。実は、アイドル業界・活動についてもサステナブル性が求められています。

幼少期よりアイドルを目指しトレーニングを行い、そして厳しい選考を勝ち抜いてスターダムに上がるアイドル達。

しかし、一度引退した彼女らが、どこで、何をしているのかを知る人は少ないのではないでしょうか。

本プロジェクトでは、アイドルを目指す候補生がスターダムになるためのプロセスのみならず、引退したアイドル達にも焦点をあて、サステナブルな環境を構築します。

そして、社会的影響力の高い彼女らとエコ活動を、トークンやNFTを用いて結合していくことで、双方のエコシステムを拡大させます。



3. 技術概要

ブロックチェーンと規格

本プロジェクトで発行されるユーティリティートークンならびにNFTは、Polygonチェーンを使用します。

Polygonチェーンとは、ブロックチェーンの中で最大コミュニティであるEthereumが採用するEVMの仕組みに基づいたチェーンです。

主な特徴としては、ブロックチェーン上でトランザクション処理を行う際に必要となる手数料（gas）が低いことであり、多くのエンタープライズ企業、Web3プロジェクトが本チェーンを採用しています。

また、ユーティリティートークンについてはERC20、NFTはERC721の規格を採用しています。これらの規格は業界でスタンダードといえるものであるため、本プロジェクトのみならず、他プロジェクトと連携することも容易であるために、エコシステムの拡大を期待することが可能です。

トークンのユーティリティー性

ユーティリティートークン（CLIP）

1. エコシステムへの参加

   Clipを保有しているユーザーは、エコ活動ならびにアイドル活動への参加が可能になります。

   - 植林活動の植林地の決定
   - 開発中のクリーンエネルギー関連技術のテスター参加
   - 絶滅危惧種に対する支援補助
   - アイドルコンサートへの参加
   - 次世代アイドルグループのメンバー投票権
   - アイドル×エコイベントにおける投げ銭
   - 各種NFTの購入決済

2. ステーキング
   - CLIPの保有者は、暗号資産取引所がステーキングサービスを提供するような場合、当
   - 該サービスを通じてステーキングに参加することにより、当該ステーキングに係る報酬を受け取ることが可能となります。

NFT

NFTを購入・保有することで、エコ活動やアイドル活動への参加証明となり、保有期間が増大することでリワードを受け取ることが可能です。

また、NFT自体をステーキングすることで、さらなるレベルアップしたNFTを受け取ることも可能となります。

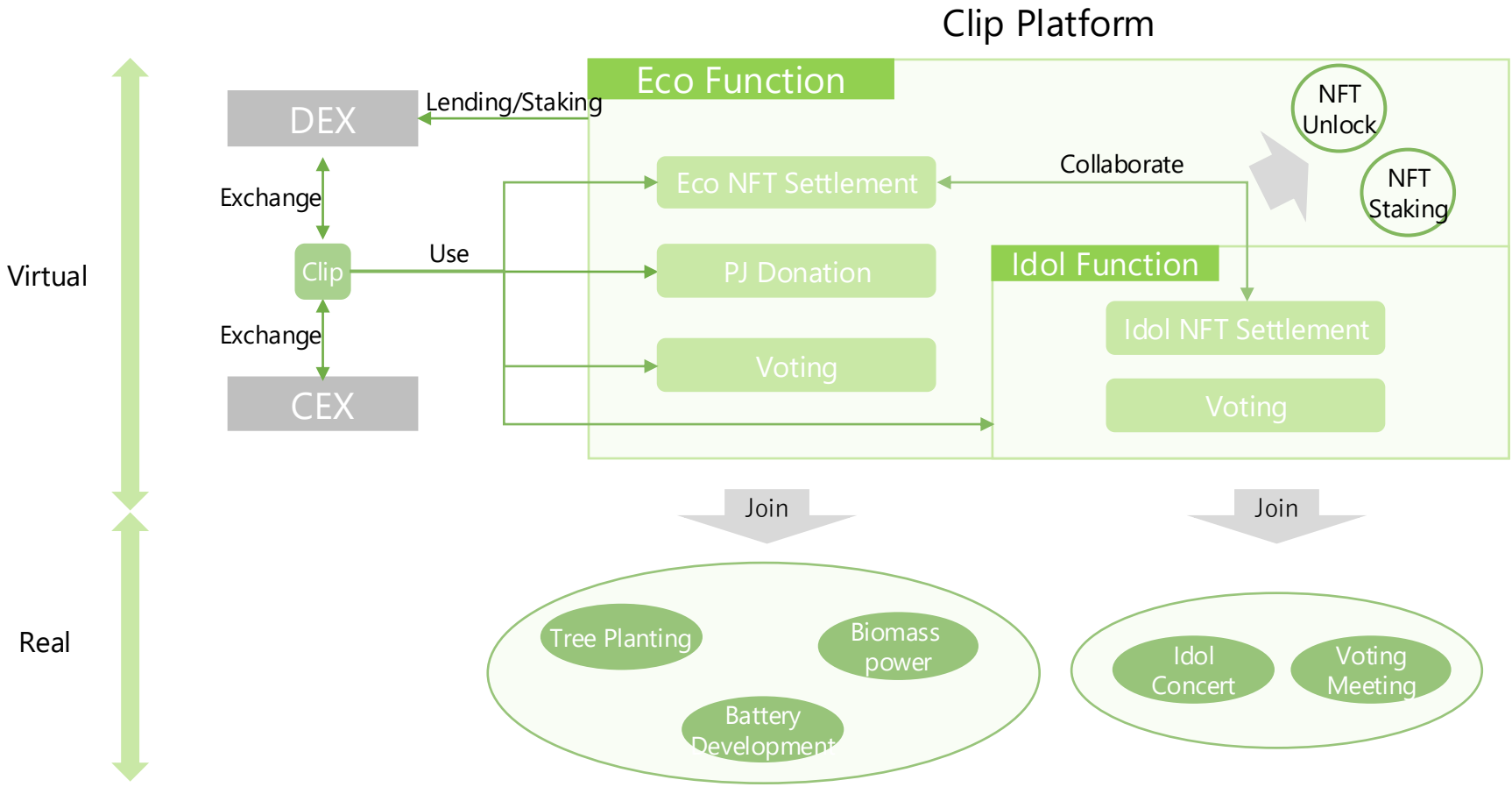
4. プロダクトとサービス

4.　プロダクトとサービス

本プロジェクトで発行されるユーティリティートークンClipを用いることで、Clip Platform上で様々な活動に参加することが可能になります。

EcoプロジェクトNFTの購入や寄付、プロジェクトの方向性を決定するVoteシステムへの参加。アイドルプロジェクトのメンバー投票やNFTグッズの購入が可能です。

また、ClipやNFTを保有していることで、各種プロジェクトのリアルな場に参加することが可能となり、実際のEco関連活動への参加やアイドルコンサートへの参加権利がもたらされます。



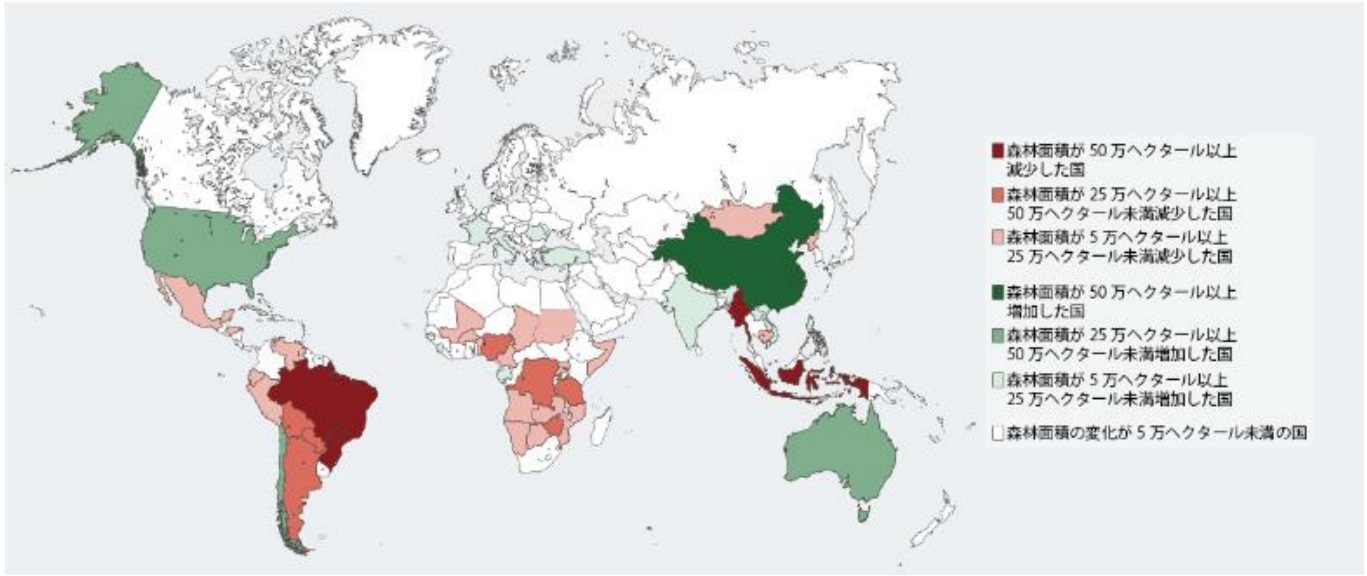
Eco - 植林

世界の森林面積は約39.9億ヘクタールで、全陸地面積の30.6%を占めています。しかし、世界の森林は減少を続けており、毎年330万ヘクタールが減少しています

特に、南アメリカ、アフリカなどの熱帯の森林を中心に減少面積が大きくなっています。一方、アジア、ヨーロッパを中心として森林面積が増加している国も見られます。森林面積の増加と減少には、地域的な偏りが見られます。

森林の減少・劣化の原因は様々です。
その主な原因としては、プランテーション用地を含む農地等への土地利用転換、持続可能な森林経営を阻害する違法伐採、自然の回復力に配慮しない非伝統的な焼畑農業、燃料用木材の過剰な摂取、森林火災などがあげられます。

これらの森林伐採を止めるべく、植林活動を積極的に推進していく必要があります。



Eco - 植林

わたしたちは、森林伐採の影響が著しい東南アジア地域での植林プロジェクトを支援しており、タイ・インドネシア・マレーシアにおける森林の定量評価を行っております。

各地域の森林区画ごとに定期モニタリングをし、ひとつのエリアごとにブロックチェーン上に森林量情報を記録、CO2吸収相当量を算出し、当該情報をNFTとして発行します。

本森林NFTはClipで購入することが可能であり、購入ユーザーは実質的に森林保護ならびにカーボンクレジットを保有していることとなります。

将来的には、森林NFTをトレーディング可能となるようにカーボンクレジット市場との連携や、
メタバース空間における土地との接続を目指します





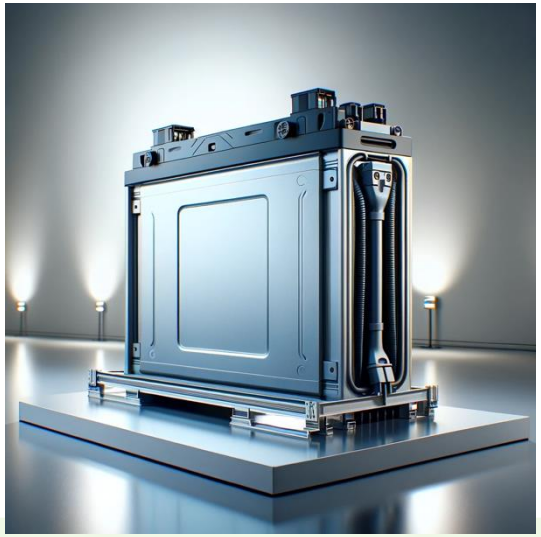
Eco - EVバッテリー

ガソリン車の環境への悪影響が問題視されてから久しく、EUの欧州委員会ではガソリン車の新車販売を2035年以降に禁止とするなど、世界で強い規制が始まっています。

ガソリン車に変わって注目・生産されているのが電気自動車（EV）ですが、EVに使用されるバッテリーの製造時や発電時のCO2排出量が多い点に留意が必要です。たとえばEVのエネルギー源となる電気が火力発電の場合、化石燃料を燃やす際にCO2が発生します。

そのためライフサイクル全体でCO2排出量を評価する「LCA（Life Cycle Assessment）」という観点からは、走行距離0kmの時点ではガソリン車よりもCO2排出量が多くなります。走行距離が増えるにつれて緩やかにCO2排出量が増えていき、走行距離が一定値を超えて初めて、ガソリン車よりもEVのCO2排出量が少なくなるのです

したがって製造段階からCO2が少ないバッテリーづくりや、削減量を可視化する対策が求められています。





Eco - EVバッテリー

わたしたちが支援するプロジェクトでは、ドバイにてエネルギー効率が優れているEVバッテリーを製造しており、かつ当該バッテリーを搭載したEVを特定のEVステーションで充電することにより、電力量に応じたトークンを受け取ることが可能になります。

これらのトークンはガソリン車と比較してCO2削減に貢献した証跡となるとともに、将来的にはカーボンクレジット市場での取引を可能とすることを目指します。

また、EVに関わるステークホルダー（EVバッテリーサプライヤー、メーカー、ユーザー、電力事業者、リユース事業者）を巻き込み、彼らが産出したCO2排出量を定量化し、ブロックチェーンに記録することを計画しています。

これにより、EVのライフサイクルにおけるどのプロセスで、どれだけのCO2排出量があるのかが可視化され、ライフサイクルにおいて重点的にCO2排出量を削減すべきポイントがわかり、削減効果を実績として正確に把握することが可能となります。

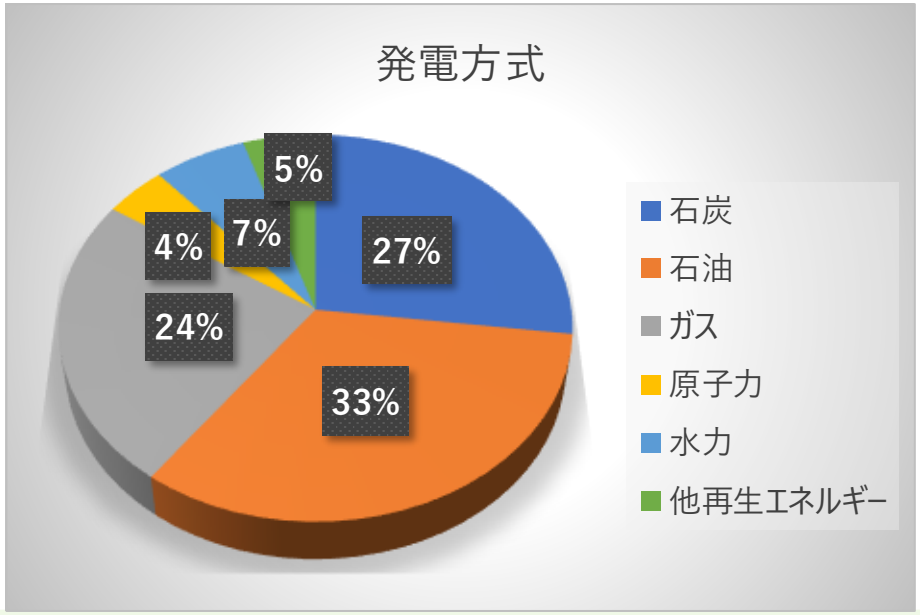


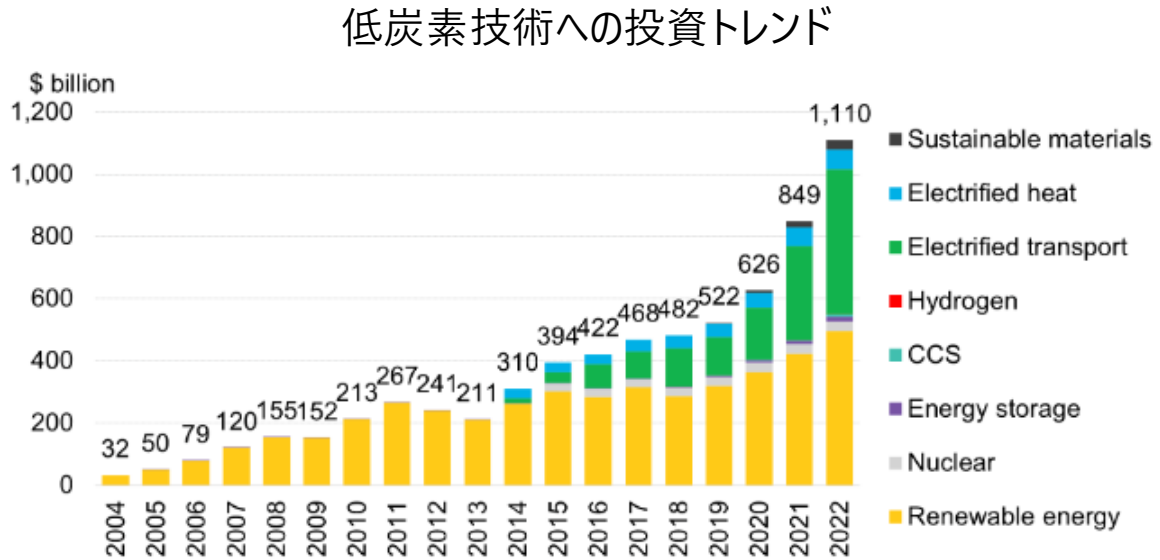
Eco - バイオマス発電

世界における電源構成をエネルギー源別に整理すると、石油と石炭という化石燃料が占める割合が過半数を超えているのが現状です。

これらの化石燃料はCO2排出量が大きいため、CO2排出量が少ない低炭素技術を活用したクリーンエネルギーへの投資が加速しているのが現状です。

クリーンエネルギーのうち注目されているのがバイオマス発電です。バイオマス発電とは、木屑や燃えるゴミなどを燃焼する際の熱を利用して電気を起こす発電方式であり、発電した後の排熱は、周辺地域の暖房や温水として有効活用ができることから理想的なクリーンエネルギーといえます。





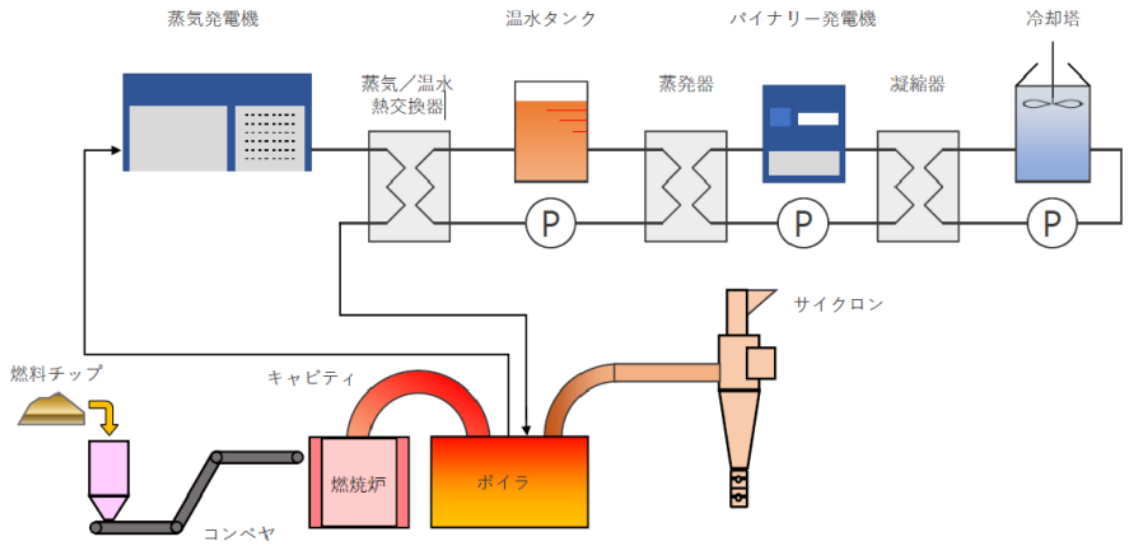
Eco - バイオマス発電

わたしたちは、グローバルにおけるバイオマス発電所関連プロジェクトと連携を行っており、当該プロジェクトでは発電所が供給する電力量のモニタリングを実施するものです。

化石燃料と比較したCO2排出量の削減分の見える化が可能であり、それらの削減量はカーボンクレジットとして定量的に算出できることになります。

初期的にはこれらの発電所の月次発電量を表彰するNFTの発行・連携を行い、将来的にはカーボンクレジット量を示すトークンを発行させ、Clipとの交換を可能とする想定です。

バイオマス発電の発電フロー



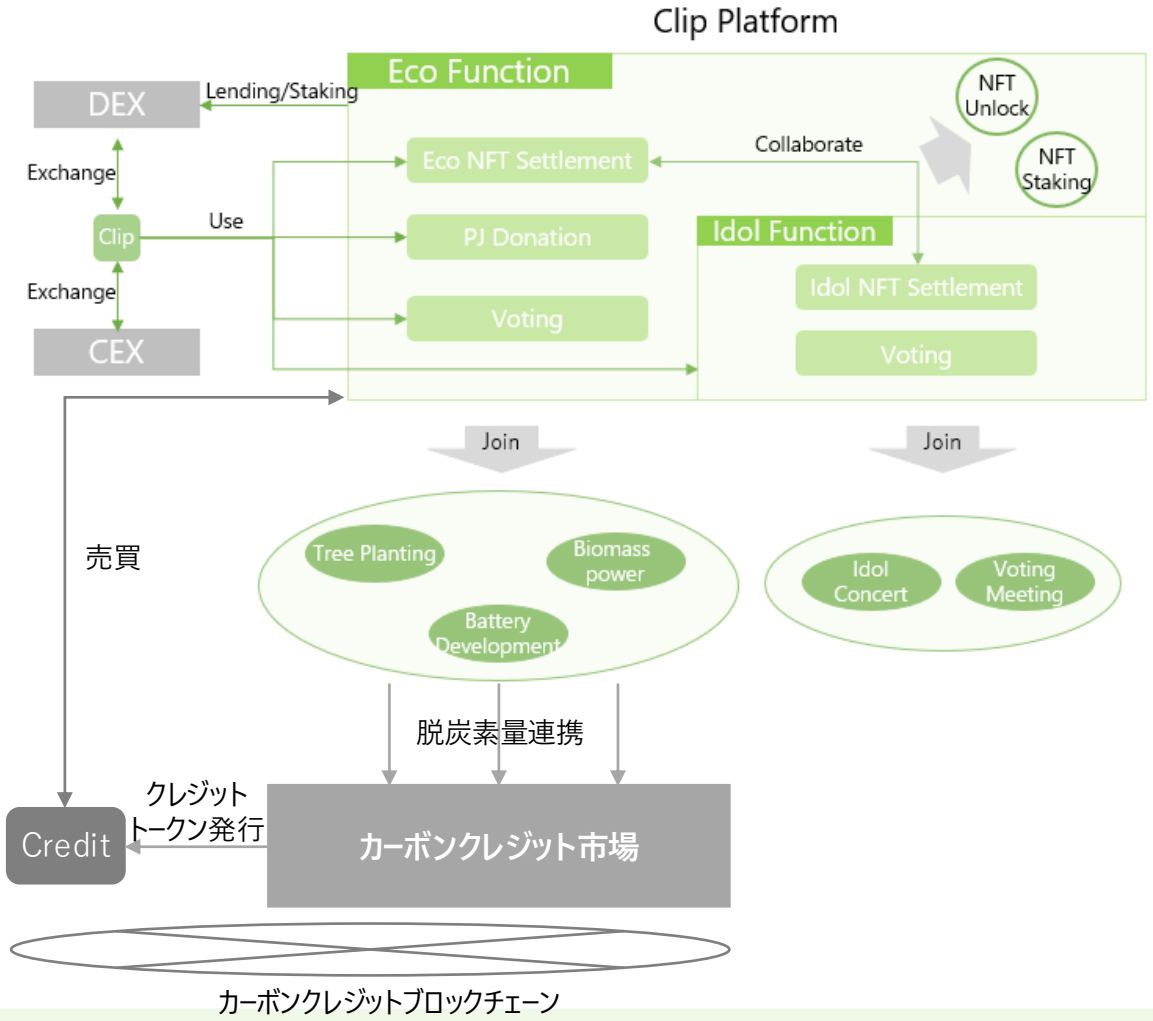
Eco – 将来的な世界観

現在連携中の植林、EVバッテリー、バイオマス発電に共通しているのは、“カーボンクレジットを創出する”ことです。

本プロジェクトでは、将来ロードマップとしてカーボンクレジット市場に接続する専用のブロックチェーンの開発を計画しています。

このブロックチェーン上でカーボンクレジットを表彰するクレジットトークンを発行し、Clip Platformと接続・出品させます。

これにより、Clipトークンでカーボンクレジットの売買が可能となり、低炭素社会への貢献が一般個人レベルでも実現可能となります。



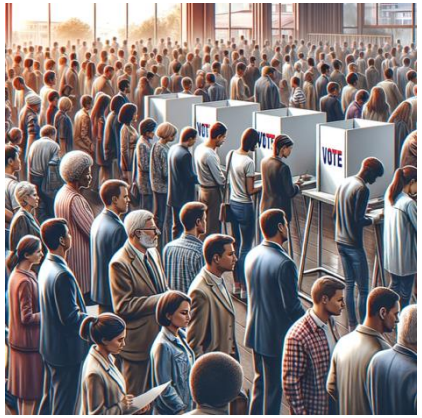
アイドル

本プロジェクトでプロデュースするアイドルグループの運営に、Clipホルダーが参加することが可能になります。

具体的には、アイドルグループのプロデュースへの関与から、実際のコンサートやチャリティイベントへの参加、そして一部の選ばれたユーザーはアイドルグループの新曲を一緒に作る権利が与えられます。

プロデュースする

Clipホルダーは、アイドルグループ結成までのオーディションから選考プロセスに参加



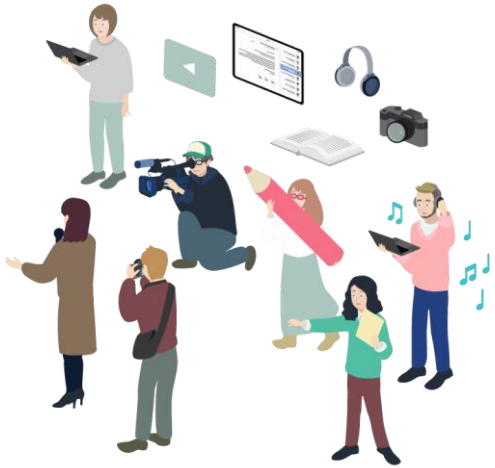
ともに楽しむ

Clip保有量・期間に応じて、アイドルグループのコンサートに参加



ともに作る

Clip保有量・期間＋特定NFTの保有によりアイドルグループの楽曲作成に関与



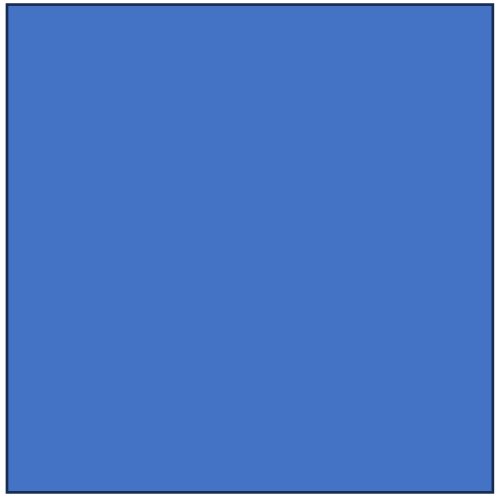
4.　プロダクトとサービス

アイドル

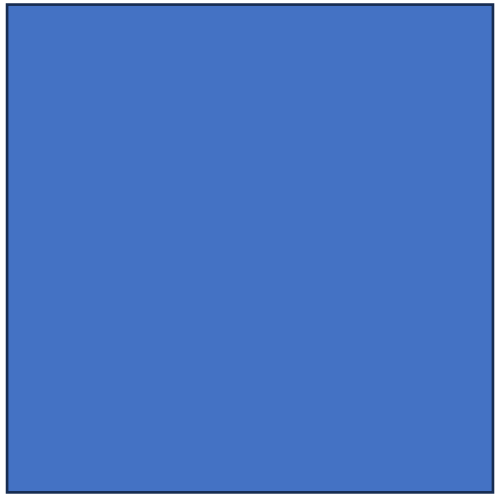
本プロジェクトにおけるアイドルメンバーには、XXXを想定。



元XXX卒業生



元XXX卒業生



元XXX卒業生

5. トークンエコノミクス

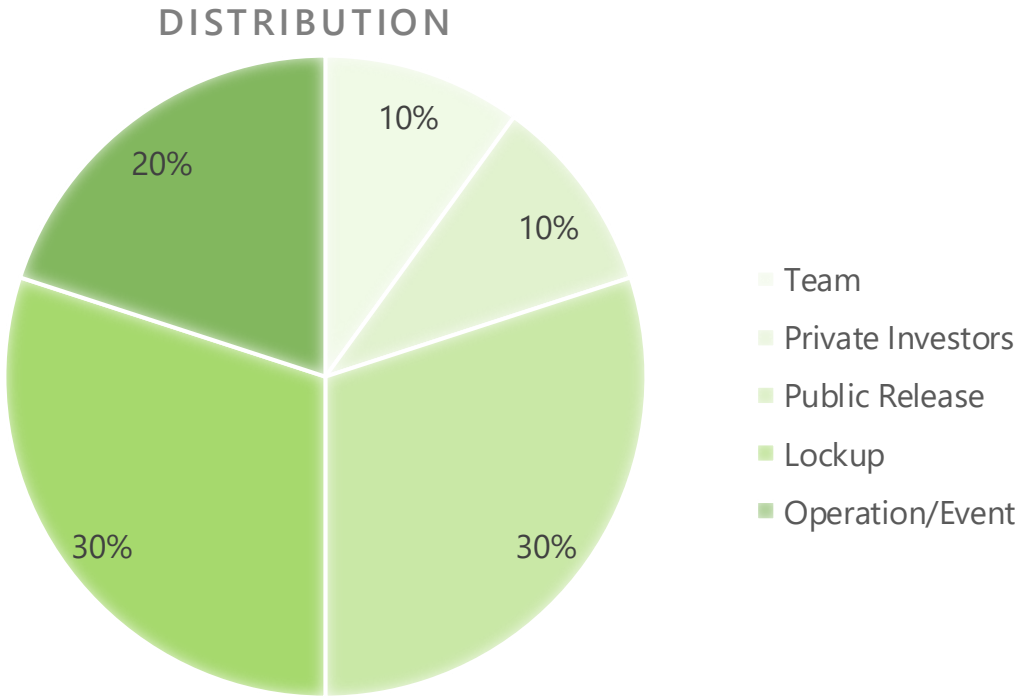
5.　トークノミクス

インフレ、デフレ対策について

5.　トークノミクス

Distribution

Private Saleでトータルボリュームの10％、Public Saleで30％の割り当てを想定しております。

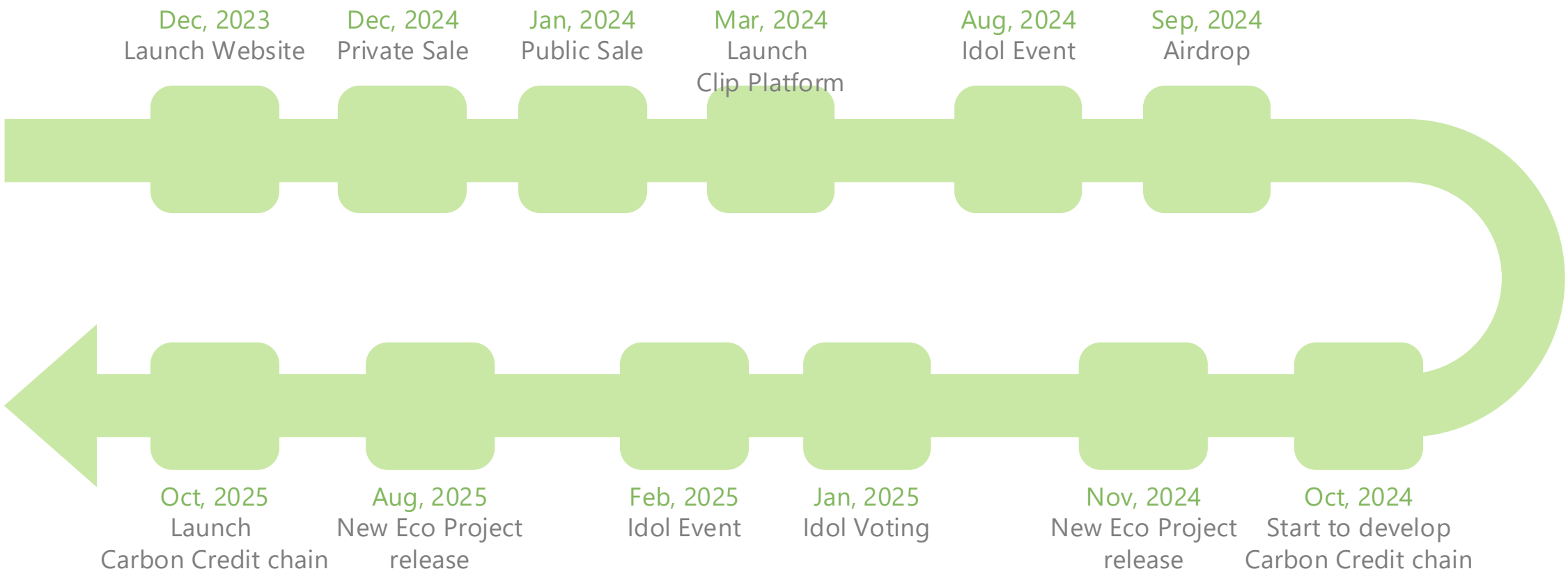


Symbol	CLIP
Total Supply	XXX Million CLIP
Private Sale	XXX Million CLIP
Technology	ERC20
Accepting	MATIC

6. ロードマップ

6. ロードマップ

本プロジェクトでは、プラットフォームやブロックチェーン開発ならびに各種NFTやERC20トークンに関わる発行・配布を以下のタイムラインで実施していく想定です。



7. チームとパートナーシップ

7. チームとパートナーシップ

CLIPは、主に以下のメンバーで構成され、ブロックチェーン・環境に詳しい専門家がサステナブルなエコシステム構築に向けて活動しています。



紹介文



紹介文



紹介文

8. リスクとコンプライアンス

8. リスクとコンプライアンス

トークン規制のリスク

各国政府は、貿易における決済手段としての暗号資産の規制制定に今も取り組んでいます。地域商業における暗号資産の使用の普及に反対する政府は、暗号資産の使用を規制された活動と見なす法律や規制を発行する可能性があります。これにより、当社によるさらなる規制遵守がなければ、トークンの所有者は将来的にトークンを使用できなくなる可能性があります。プロジェクト、その関連会社、およびCLIPチームは、CLIPの全体的なフレームワークとビジョンを理解しています。

CLIPプラットフォームの使用に伴うリスク

暗号資産の交換業は複雑であり、厳しい資格要件が必要です。開発者が、グローバルな暗号資産を使用してサービスの支払いを可能にするシステムを正常に作成できるという保証はありません。ネットワークの確立に失敗すると、CLIPプラットフォーム内の決済通貨としてのトークンの流動性が低下します。

トークン販売に伴うリスク

CLIPは投資商品ではありません。CLIPは プラットフォーム内で特定の機能を有し、アクセスして使用する手段となります。CLIPがなければ、一般の人々はプラットフォームにアクセスできません。また、CLIPの取得による将来の利益を期待することはできません。これらおよびその他の理由により、当社は、CLIPの販売は有価証券の公募には当たらないと考えています。しかし、トークン販売に対する規制は常に変化しており、将来的には規制当局がトークン販売の規制範囲を拡大しようとする可能性も考えられます。これにより、CLIPの販売がさまざまな管轄区域での登録要件の対象となる可能性があります。CLIP販売が登録要件の対象となった場合、提案されているCLIP販売が無期限に遅延または延期される可能性があります。

8. リスクとコンプライアンス

課税リスク

決済通貨の形式としてのトークンの使用には、地方所得、キャピタルゲイン、またはその他の形式に関わる税金が課される場合と課されない場合があります。税法におけるこの不確実性により、販売者と顧客は同様に、決済通貨としてのトークンの使用、および/またはキャピタルゲインを目的としたトークンの取引に関連する予期せぬ将来の税金の影響にさらされる可能性があります。

資本規制のリスク

多くの管轄区域では、国境を越えた資本の流れに厳格な規制が課されています。トークン所有者は、いつでもこれらの規制および/またはかかる規制の恣意的な執行の対象となる可能性があります。これにより、トークンを現地の管轄区域外から海外の取引所に移送することが違法行為となり、トークンのユーザーが政府の罰金やその他の規制上の制裁にさらされる可能性があります。

CFT および AML規制

多くの管轄区域では、テロ資金供与やマネーロンダリング活動と闘うための規制を制定しています。悪意のある者による暗号資産の使用は、そのような規制に違反する可能性があります。トークンが不正に使用されると、CLIPプラットフォームの世界的な評判に重大な影響を与える可能性があります。そのようなイベントが発生した場合、これがCFTおよびAML規制当局による精査のきっかけとなり、CLIPプラットフォームにおけるトークンの流通と流通に重大な混乱を引き起こす可能性があります。

8. リスクとコンプライアンス

ブロックチェーンのリスク

トークンが没収および/または盗難の対象となる可能性があります。ハッカーやその他の悪意のあるグループ・組織は、さまざまな方法でトークンに干渉しようとする可能性があります。マルウェア攻撃、コンセンサスベースの攻撃、シビル攻撃、スマーフィングおよびスプーフィングが含まれますが、これらに限定されません。CLIPプラットフォームが採用するブロックチェーンに関連付けられたトークンには、望ましい機能・価値ある機能がない可能性があります。また、テクノロジーは変化していますそのため、CLIPプラットフォームとトークンは時代遅れになる可能性があります。暗号資産、ブロックチェーン技術の規制状況は、多くの法域で不明確または不安定です。

政府当局がそのような技術をどのように規制するか、あるいは規制するかどうかを予測するのは困難です。同様に、政府当局がどのように、あるいはどのような影響を与えるのかを予測することは困難です。暗号資産、ブロックチェーン技術、およびそのアプリケーションに影響を与える既存の法律、規制、規則を変更する場合があります。このような変更は、例えば、トークンが規制されている判断など、さまざまな方法でCLIPプラットフォームおよび/またはトークンに悪影響を与える可能性があります。法規制の変更に伴い登録が必要な金融商品に該当する場合、当社はトークン配布を中止することがあります。プラットフォームの開発が政府の措置により継続することが違法または商業的に望ましくない場合には、管轄区域内での運営を中止することもあります。

8. リスクとコンプライアンス

事業リスク

当社の主な競合他社は、当社が利用できる資金よりも多くの資金力を持っているため、人材を惹きつけて新しい事業を開始するのに有利な立場にある可能性があります。当社が競争力を維持できるかどうかは、部分的には、新しく強化された製品またはサービスを開発し、これらの製品またはサービスをタイムリーかつコスト効率の高い方法で導入する能力にかかっています。加えて、当社の競合他社による製品やサービスの導入や機能強化、あるいは他のテクノロジーの使用により、当社の既存の製品やサービスの売上減少や市場での受け入れの喪失が引き起こされる可能性があります。当社が新しい製品やサービスの選択、開発、マーケティング、または既存の製品やサービスの強化に成功するという保証はありません。これがうまくいかない場合は、当社の事業、財務状況、業績に悪影響を与える可能性があります。

当社が事業を展開する業界は新しいものであり、法規制の変更により調査や精査の対象となる可能性があります。政府当局が会社の業務を調査したり、会社に対して執行措置を講じたりしないことを保証することはできません。これらすべてにより、当社は判決、和解、罰金または刑罰の対象となる可能性があり、また当社の業務や活動の再構築、または特定の製品やサービスの提供の中止を余儀なくされる可能性があり、当社の評判を傷つけたり、運営コストの増加につながる可能性があります。その結果、重大な悪影響を及ぼす可能性があります。